石井の清水、石製露盤及び刹

いしいのしみず、せきせいろばんおよびさつ

文化財愛護シンボルマーク

石井の清水

名　　称	石井の清水	所有者等	中西町内会
別　　称	石井（イシイ）さん	指　　定	加古川市指定文化財
数　　量	１か所	指定分類	史跡
時　　代	不詳　江戸時代後期（18 世紀）以前	指定名称	石井の清水
所 在 地	加古川市西神吉町中西 251 番地	指定年月日	平成 26（2014）年２月 27 日

石製露盤及び刹

名　　称	石製露盤及び刹	所 在 地	加古川市西神吉町中西 251 番地
別　　称	中西廃寺の露盤・刹	出 土 地	中西廃寺
数　　量	露盤１個、刹１個	所有者等	中西町内会
寸　　法	露盤　縦 99cm、横 97cm、高さ 45cm 以上	指　　定	加古川市指定文化財
	刹　　外径 46cm、内径 31cm、高さ 36cm 以上	指定分類	考古資料
材　　質	石造　凝灰岩製	指定名称	石製露盤及び刹
時　　代	飛鳥時代　７世紀後半	指定年月日	平成 26（2014）年２月 27 日

石井の清水（写真中央：石製露盤及び刹）

石井の清水遠景

石井の清水は、西神吉町中西集落の南側、段丘が一段下がった場所にある湧き水です。

地元で語り伝えられているお話によると、その昔、水を飲ませてほしいというお爺さん（一説には弘法大師ともいわれています）の願いを、中西の人は快く引き受け親切にしてあげたそうです。このとき、中西の人たちが水に困っていることを聞いたお爺さんは、持っていた杖で地面をつきました。すると、そこから澄んだ水が湧き続け、これまで一度も枯れたことがないといわれています。

また、江戸時代の旅行案内である『播州名所巡覧圖絵』でも紹介されており、この清水が名所として賑わい、かつて大名たちがここで水を汲み、茶を入れていたことが記されています。また、井戸枠に石製の部材を用いていることから、「石井」と呼ばれていることも記されています。

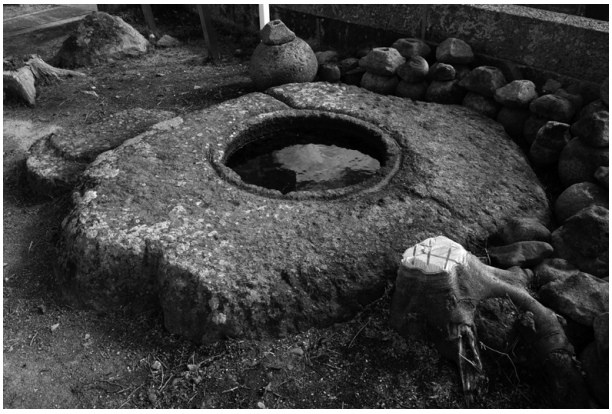
この石製の部材は、石井の清水から北東約130ｍの場所にあったと推定される中西廃寺の塔の露盤と刹を転用したものと考えられています。

露盤と刹は、五重塔などの仏塔の屋根頂部に立つ相輪を構成するもので、露盤はその基礎部分、刹（「刹管」ともいいます）は九輪を取り付ける柱の部分のことです。

中西廃寺は、中西集落の東側に位置する薬師堂の敷地内に残されている巨大な心礎（塔の心柱を受ける礎石）や、その付近から出土している古代瓦から、その存在が推定されている古代寺院です。出土した古代瓦には複数の時期のものがあり、飛鳥時代の創建以降、平安時代後期まで存続したと考えられています。

このように、石井の清水は、江戸時代の文献資料に名所として紹介されているだけでなく、井戸枠に古代寺院の塔の部材である露盤と刹を転用した珍しい事例として注目できます。加古川の歴史文化の特徴である「水」と「石」をよく示すものであり、大切な地域の文化財といえます。現在は、地元有志の方々によって維持管理され、いつでも見学することができます。

（文・写真・計測／平尾）



中西廃寺の心礎

●参考文献

兵庫県印南郡　1916『増訂印南郡誌』兵庫県印南郡

鎌谷木三次　1942『播磨上代寺院阯の研究』成武堂

郷土のおはなしとうた第３集編集委員会　1976『郷土のおはなしとうた』第３集　加古川市教育委員会

加古川市史編さん専門委員　1996『加古川市史』第４巻　加古川市

●キーワード

石井の清水　『播州名所巡覧圖絵』　中西廃寺　露盤　刹　刹管　九輪　相輪　心礎　古代瓦

●所在地／兵庫県加古川市西神吉町中西 251 番地

●交　通／公共交通の場合、かこバスミニ志方中ルート・志方東ルート「中西」バス停から南へ徒歩５分

※周辺に駐車場はありません

編集・発行：加古川市教育委員会　文化財調査研究センター

令和４年３月 31 日（2022.03.31／1000）